

大阪観光大学観光学研究所年報『観光研究論集』執筆要領

1. 原稿の作成

(1) 原稿の書式・・・原稿は下記の規定にしたがい、添付のフォーマットを利用して、MS-Wordなどのワープロソフトで作成する。

(2) 行数・字数・余白・字体など 1 ページは、ヨコ 49 文字、タテ 43 行、1 段とする。字体は原則として日本語の場合は明朝体、英語・数字の場合は Times New Roman を使用する。縦書き、外国語による原稿の場合は、執筆者と観光学研究所との相談によって要領を決める。

2. 字数（枚数）・・・別途定める投稿規定に順守した字数（枚数）とする。

3. 執筆要領

(1) 表題・副題・英文表題 表題・・・14 ポイントで太字にする。副題がある場合は 10.5 ポイントで太字とし、英文表題は 11 ポイントとする。

(2) 著者名・ローマ字氏名・・・10 ポイントとする。著者名末尾には「*」を付ける。連名の場合も同様であるが、所属が異なる場合は「**」、「***」などとする。

(3) 要約・・・6 行以上 8 行以内の日本語要約を付ける。要約は 9 ポイントで、左右の行端は、本文の左右行端からそれぞれ 2 字分さげること。

(4) キーワード・・・4 語のキーワードを下記の要領に従い 10 ポイントで記すこと。日本語キーワードには英訳、英語キーワードには日本語訳をつけること。なお、英語キーワードは固有名詞以外の語頭は小文字にすること。

例 日本語の場合 キーワード:観光(tourism)、観光目的地(tourist destination)

例 英語の場合 Keywords:tourism (観光)、tourist destination (観光目的地)

(5) 各表記の行間・・・表題と英文表題の間はあけない。英文表題と著者名の間は 1 行あけ、著者名とローマ字氏名の間はあけない。

(6) 所属の表記所属は 1 ページ目下端部を用いて表記する。10 ポイントを用い、「*所属」の形で記すこと。連名で所属が異なる場合は、「**」、「***」とする。

(7) 本文・・・本文の文字サイズは 10 ポイントを用いる。本文の章題等は次のように統一する。

①章・・・ 1. 2. 3. (数字は、全角・ゴシック体)

②節・・・ (1) (2) (3) (同、半角・ゴシック体)

③項・・・ 1) 2) 3) (同、半角・ゴシック体) 数字の後に半角スペースを置く。章題等の文字部分は全てゴシック体とする。章と章の間は一行あけること。

(8) 図・表・写真・・・記載の順に図-1、表-1、写真-1 のように通し番号をつける。図および写真の場合は下に、表の場合には上に通し番号とタイトルをいれる。通し番号とタイトル文字はともに、原則としてゴシック体、10 ポイントで表記し、センタリングして配置する。

(9) 補注、引用・参考文献、謝辞など・・・補注、引用・参考文献の見出し等ゴシック体 9 ポイントで【補注】、【引用・参考文献】と表記し、次行から明朝体 9 ポイント

で記す。本文末と補注の間、補注と引用・参考文献の間は1行あける。

補注は、本文の該当箇所の右肩に、⁽¹⁾、⁽²⁾、⁽³⁾ … の記号で示し、本文末に一括して掲載する。脚注は用いない。例 観光情報を収集して分析を加えた⁽¹⁾。

引用・参考文献 引用・参考文献は、本文中の該当箇所の右肩に¹⁾、²⁾、³⁾ …の記号で示し、本文末に一括して掲載する。

例 「楽しみを目的とする旅行」と定義されている¹⁾。

(10) 引用・参考文献・・・以下の形式で記載する。

・引用・参考ページは、p.28 あるいは pp.105-112 のように表記する。引用・参考文献における日本語、英語以外の表記については、和訳、もしくは英訳を併記すること。

<単行本の場合>

- 1) 著者名(公刊西暦年号):書名,発行所,引用・参考ページ
- 2) 著者名(公刊西暦年号):論文名(編著者名『書名』発行所),引用・参考ページ<雑誌の場合>
- 3) 著者名(公刊西暦年号):論文名,掲載雑誌名,巻(号),引用・参考ページ<インターネット上の情報の場合>
- 4) 著者名:ウェブページタイトル,言語の表示,アドレス(URL),入手日付

<新聞記事の場合>

- 5) 記事執筆者名:記事のタイトル,収録新聞名,朝刊/夕刊の別,発行年月日,掲載面

・欧文引用・参考文献

<単行本の場合>

- 6) 著者のファミリーネーム,ファーストネーム(公刊西暦年号):タイトル:サブタイトル,出版都市,出版社,引用・参考ページ

<雑誌の場合>

- 7) 著者のファミリーネーム,ファーストネーム(公刊西暦年号):論文のタイトル,雑誌名(イタリック体),巻(号),引用・参考ページ
- ・謝辞、付記 必要がある場合は、本文末と補注の間に前後それぞれ1行あけて謝辞:、あるいは付記:とゴシック体9ポイントで表記し、その後に明朝体9ポイントで記すこと。

4. 原稿の提出

ワープロソフトによって作成した完全原稿のファイル、およびそれをPDF化したファイルの双方を、電子メールに添付して提出する。

提出先:山口隆子(メールアドレス:t-yamaguchi@tourism.ac.jp)

以上

2017年9月10日改訂

2018年6月20日改訂